

湖国の礎～昭和の文化遺産

滋賀県庁（本館）

建築の歴史： 明治21年に建築された旧庁舎が50年間の風雪により若朽化したことにより、昭和7年臨時県議会で改築問題の提案がされ、審議検討のうえ庁舎改築計画が承認された。昭和11年には改築を前に他府県調査が議会で予算可決され2班編成で先進調査した。昭和11年12月県議会へ改築案の提出がされ併せて仮庁舎を大津市別所の県公会堂等に設け改修し使用することとされた。昭和12年1月設計事務所佐藤功一、国枝博氏に設計を依頼した。
昭和12年8月には庁舎改築事務所が開設される。
昭和12年8月工事指名入札実施同年9月再入札執行随意契約で大林組と契約
昭和12年10月1日庁舎改築起工、同月14日地鎮祭挙行
昭和13年11月8日庁舎上棟式、議事堂清祓式挙行
昭和14年4月28日新庁舎へ移転、5月16日竣工式挙行



建物概要： 明治21年竣工の旧庁舎が手狭になったことから、新たな庁舎として計画、施工されたものである。十字型配置であった旧庁舎から中庭を囲む箱形配置とし、正面中央に玄関を設け、正面西端に議事堂玄関、西に向けて議事堂玄関を設けた。1階には会計、文書、健康保険課等県民に身近な課を配置。2階西側に学務関係、東側に警察関係、正面に会議室、3階には正面東側に知事室、秘書課、記者室を、西側に総務部関係、参事会室、4階正面には貴賓室のほか第三会議室、経済部各課等を配置した。また、屋上正面中央に塔屋を設け、旧庁舎2階正庁を明治天皇行啓の記念室として保存した。外観は新日本近世式であり、外壁腰壁には人造石小叩き仕上げとし、上部を信楽産のスクラッチ二丁掛けタイルを使用した。内部は1階ホール、廊下は床を人造石研ぎ出し、腰壁テラゾーブロック張り、上部白漆喰塗、天井コルク吹付け一部白漆喰塗とし、一般執務室は床・腰ともテラゾーブロック張り、壁天井白漆喰、知事室は床を寄木張り、腰壁は羽目チーク材、壁上部、天井を漆喰塗りとした。正庁は、床をゴムタイルとし腰壁羽目板を檜ベニヤペンキ塗り、壁上部壁紙張り、かまちは檜材、天井はコルク粉吹付けペンキ仕上げとした。また、平成8年度から外壁改修と耐震改修工事を実施し、美しい表情を見せている。

規模構造概要 延べ床面積 15,529.98㎡
鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 地上4階地下1階塔屋1階
基礎 大割栗石地業鉄筋コンクリートフーチング基礎
建築物の高さ 屋上壁20m 塔屋頂部35.4m

設備概要 電気：受電・3000V60S3相3線 電灯3相3線分岐105V 動力220V3相3線
避雷針塔屋1ヶ所屋上3ヶ所 電気時計、時報サイレン設備 電話設備 幹部出退表示
知事、各部長間の動向を表示 呼出電話 非常ベル設備 放送設備
機械：暖房熱源 鑄鉄セクショナルボイラー、蒸気循環室内コンベクター
給水設備は上水および井水を加圧し、屋上高架水槽より給水
井水は中庭に深井戸ポンプを設置 濾過器を通し洗淨手洗い水に使用
消火栓設備 汚水浄化設備 350人槽 ガス設備 昇降機設備

工事施工概要 設計、工事監理 工学博士佐藤功一 工学士国枝博 監理・県庁舎改築事務所
本館、付属棟建築工事 株式会社大林組
本館電話設備 沖電気株式会社
電気設備 工藤電気工務所
暖房換気衛生設備 須賀商会
鉄筋、鉄骨材 津田勝五郎商店内津田山本商店
作業人員数 約66,000人
使用材料(本館)鉄筋 1,200t (支給)鉄骨 61t
(支給)セメント128,000袋 砂利 2,200m³ 砂 2,500m³

